

閉校

地域とともに130年ありがとう湯ノ岱・早川・小砂子小学校
 『小砂子小学校』の3校が、平成27年3月31日をもって閉校となりました。



早川小学校



現校舎(平成14年完成)



旧校舎(昭和57年頃)

早川小学校は、その前身である早川尋常小学校が明治16年1月20日に児童20人を迎え、法香寺にて開校式が行われ、校舎が完成するまでの2年間は、民家を仮校舎として利用して見守ってきました。

明治37年に、民家から出火した火事が村落の多くを焼失する大火となり、学校も全焼するなどの苦難もありましたが、地域の方々の尽力もあり、翌年には法香寺裏の高台に校舎が建設されました。

その後は、大正9年に校舎を現診療所敷地内に移転し、昭和17年には中外地区の発展とともに早川小学校二股分校場が開設(旧若葉小学校)されました。

昭和30年に校舎の老朽化と増える児童数の問題から現校舎付近に移転新築し、児童数も昭和34年には、ピークとなる273人の生徒が在籍していました。

また、この頃、早川小学校の目の前には、中外地区への道を一本隔てて早川中学校があり、平成13年の閉校まで、小学校と共に歩み、

かつての学舎を卒業生が見守ってきました。このような歴史のなかで、これまで2146人の卒業生を送り出した早川小学校も、4月1日より滝沢小学校に統合になります。在校生4人は早川で学んだことを支えに、滝沢と上ノ国の新たな学舎で新たな仲間とともに、春を迎えています。

早川小学校 校歌

一、揮く青波、館神の
 みまきと巡る 新潮に
 理想の夢を はぐくみ
 いそいそ我らが
 高鳴る胸よ
 ああ 学び舎の
 念は、さやけし

二、流れもつせぬ 早川の
 よとみに映ゆる 日よ月よ
 歴史を長き ふるさとに
 豊かに 文化の
 花がはらばら
 ああ 学び舎の
 庭は 明るし



湯ノ岱小学校



現校舎(平成11年完成)



旧校舎(昭和60年頃)

湯ノ岱地区の教育体制は充実を見せました。その後、地域の発展と比例するように、児童数は増え、昭和29年には小学校も現校舎付

育み、巣立たせてきました。湯ノ岱地区に開校し、湯ノ岱地区の子ども達を

当時、単立たせてきました。湯ノ岱地区に開校し、湯ノ岱地区の子ども達を

また、昨年、廃線となったJR江差線が開通した昭和10年当時は、湯ノ岱地区全体に物や人がごったがえすほどの活況となり、鉄道敷設の記念式典が、当時の湯ノ岱小学校にて盛大に開かれたそうです。

近に新設され、児童数も昭和34年にはピークとなる272人にも上りました。

湯ノ岱小学校 校歌

一、緑の風に 夢のそよ
 七つが岳の 空ほろか
 理想は にじの 花とせよ
 明るし 業し 学びやよ
 努め 廣かん 知恵の目と

二、朝霧かおる 天の川
 稲田の里の 幸多く
 歴史に 映ゆる 胸の地も
 美し 清し 学びやよ
 鍛え 励まん 鉄の身と

